

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	外傷保存療法の経過及び治癒の判定		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜时限	後期	教室名	第2校舎302
担当教員	澤 卓実	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

問診、視診、触診、計測、機能検査などの臨床的判定に必要な知識と技能を交えながら、保存療法の経過を各部位ごとに治療の判定を解説していきます。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験 100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

《授業外における学習方法》

対応教科書を参照して、外傷についての復習と予習を必ず行なって下さい。

《履修に当たっての留意点》

柔道整復師として最も必要になる知識の1つです。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版配布資料	対象傷病の予習は必須です。また理解を確実なものにするために復習も必要です。
	各コマにおける授業予定	プロローグ		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版配布資料	対象傷病の予習は必須です。また理解を確実なものにするために復習も必要です。
	各コマにおける授業予定	骨折の保存療法の経過および治療の判定-1		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版配布資料	対象傷病の予習は必須です。また理解を確実なものにするために復習も必要です。
	各コマにおける授業予定	骨折の保存療法の経過および治療の判定-2		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版配布資料	対象傷病の予習は必須です。また理解を確実なものにするために復習も必要です。
	各コマにおける授業予定	脱臼の保存療法の経過および治療の判定-1		
第	講義	脱臼の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理論編第6版およ	対象傷病の予習は必須

5 回	義 形 式	各コマに おける 授業予定	脱臼の保存療法の経過および治療の判定-2	び柔道整復学・ 実技編第2版 配布資料	じゅうまいに理論を確実なものにするために復習も必要です。
	授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	軟部組織の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理 論編第6版およ び柔道整復学・ 実技編第2版 配布資料	対象傷病の予習は必須 です。また理解を確実な ものにするために復習も 必要です。
		各コマに おける 授業予定	軟部組織の保存療法の経過および治療の判定-1		
第 7 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	軟部組織の保存療法の経過および治療の判定を理解する	柔道整復学・理 論編第6版およ び柔道整復学・ 実技編第2版 配布資料	対象傷病の予習は必須 です。また理解を確実な ものにするために復習も 必要です。
		各コマに おける 授業予定	軟部組織の保存療法の経過および治療の判定-2		
第 8 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	各組織における保存療法の経過および治療の判定理解する	柔道整復学・理 論編第6版およ び柔道整復学・ 実技編第2版 配布資料	対象傷病の予習は必須 です。また理解を確実な ものにするために復習も 必要です。
		各コマに おける 授業予定	骨折・脱臼・軟部組織の保存療法の経過および治療の判定ま とめ		